

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況 ① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

ポイント

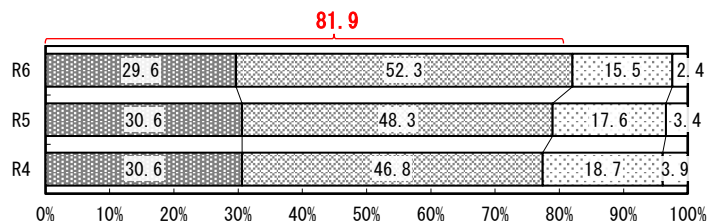
- 【pp.28-29】 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。
- 【p.30】 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関が見られる。
- 【p.31】 授業の中で主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童生徒は、家庭の社会経済的背景 (SES) が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

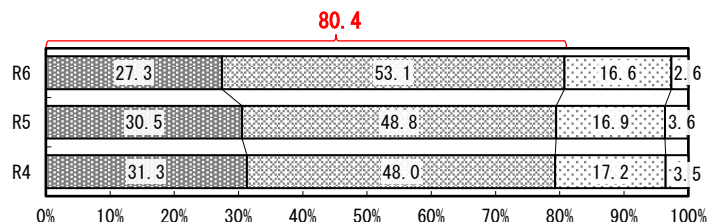
児童 [30] 生徒 [30] 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校

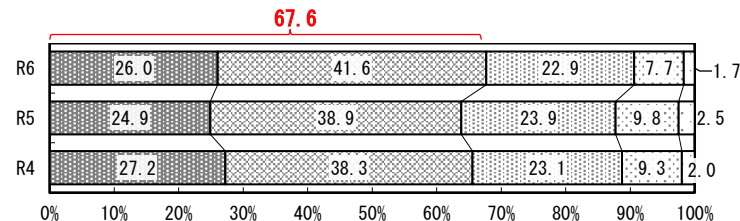


授業で工夫して発表していた

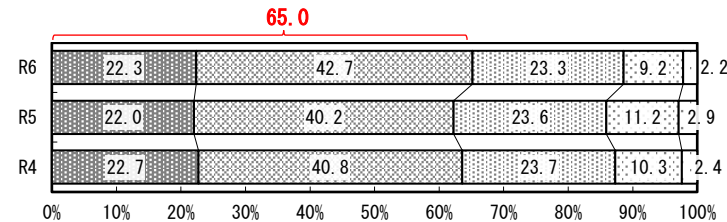
児童 [29] 生徒 [29] 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

■ 発表していた ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表していなかった □ 発表していなかった □ 考えを発表する機会はなかった

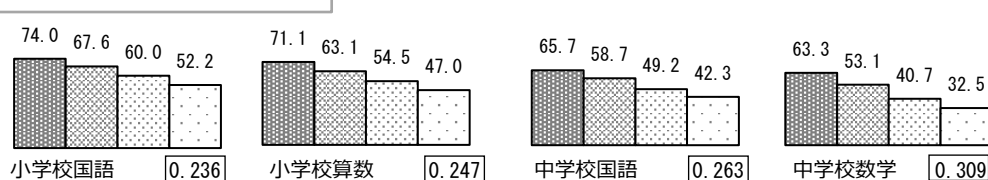
小学校



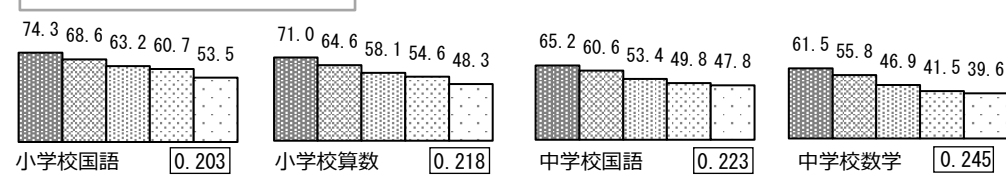
中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



選択肢ごとの教科の平均正答率



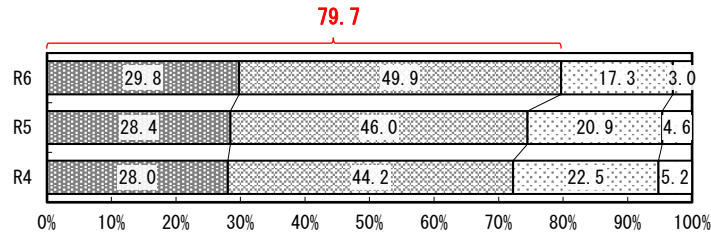
学んだことを生かしながら考えをまとめていた

児童〔31〕
生徒〔31〕

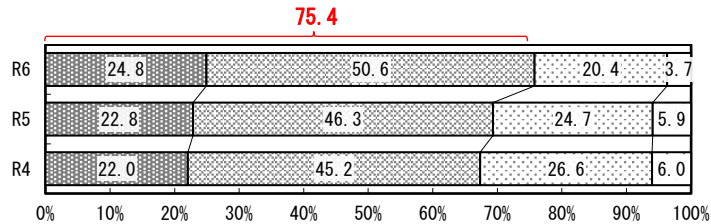
5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

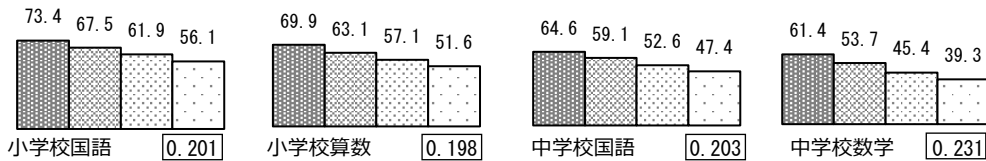
小学校



中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



クロス集計

(児童生徒)

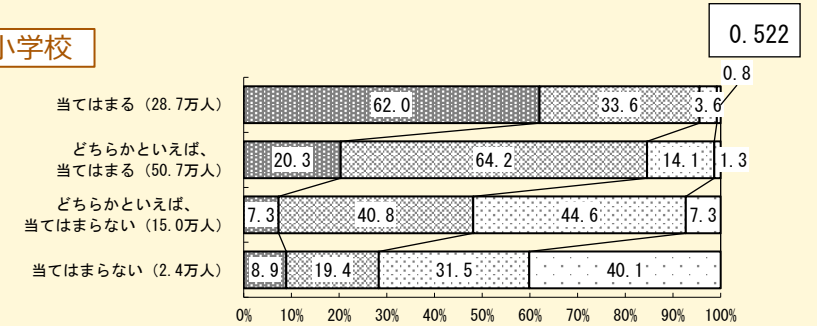
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔30〕

【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】× 【自分で学び方を考え、工夫】

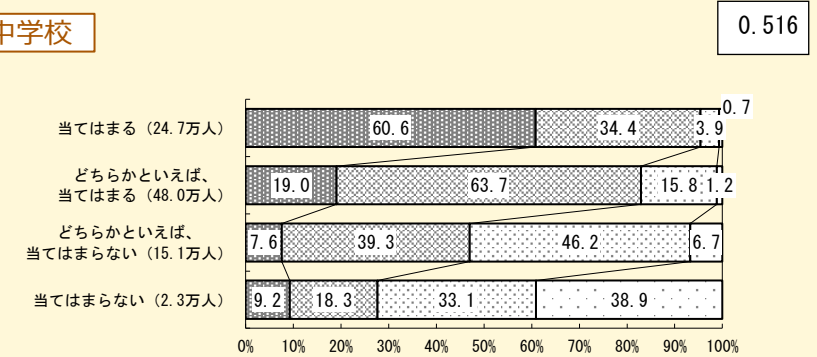
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔20〕(新規)

■ できている ■ どちらかといえば、できている
■ どちらかといえば、できていない □ できていない

小学校



中学校



(※) 「児童生徒〔30〕課題の解決に向けて自分から取り組んだか」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

「主体的・対話的で深い学び」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係

- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に影響を与えている可能性がある。

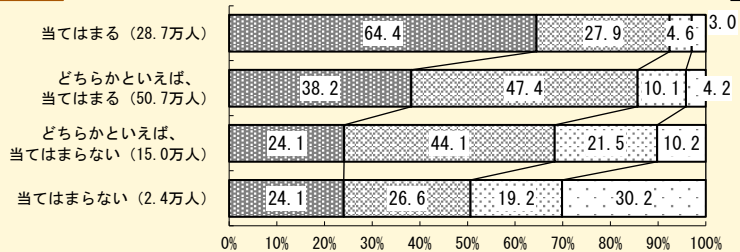
【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔9〕

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

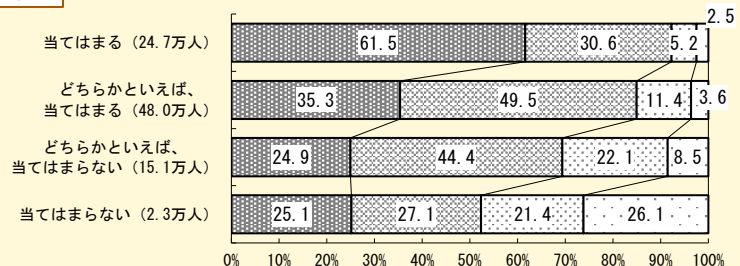
小学校

0.313



中学校

0.297



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔30〕

クロス集計 (児童生徒)

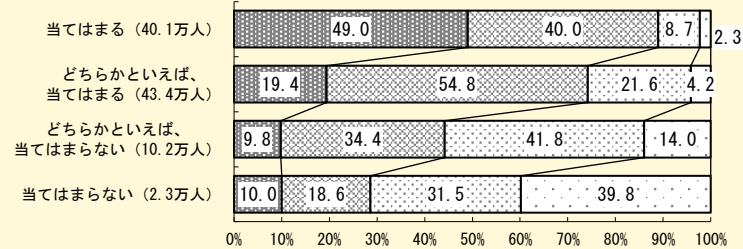
【話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした】 × 【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔17〕

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

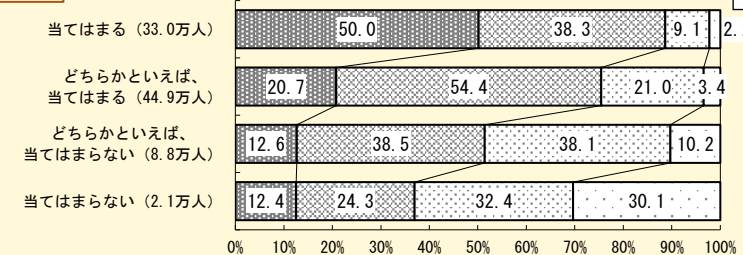
小学校

0.415



中学校

0.364



学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔33〕

(参考) 令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析については、令和5年度文部科学省委託研究(受託者:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00010.html



「社会経済的背景 (SES)」 × 「主体的・対話的で深い学び」 × 「正答率」の関係

三重クロス集計

家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる中でも、「主体的・対話的で深い学び」(※)に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

(※) 「児童生徒〔30〕課題の解決に向けて自分から取り組んだか」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

【家にある本の冊数】 × 【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【各教科の正答率】

[授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 児童生徒〔30〕]



- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

[家にある本の冊数
児童生徒〔23〕]



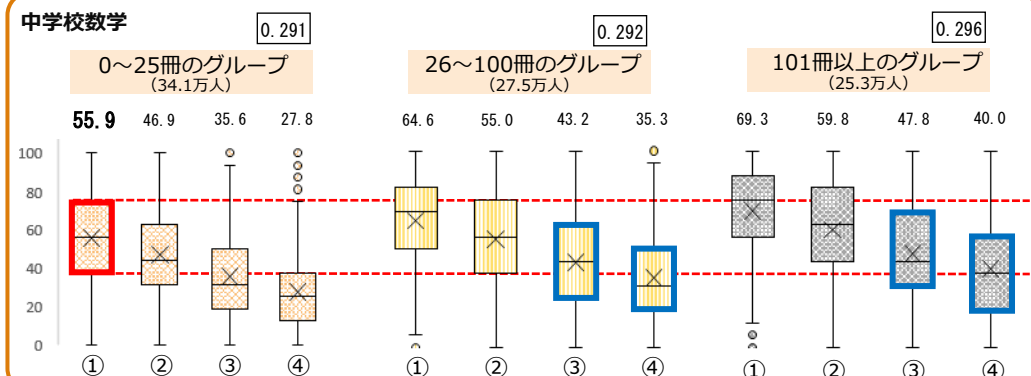
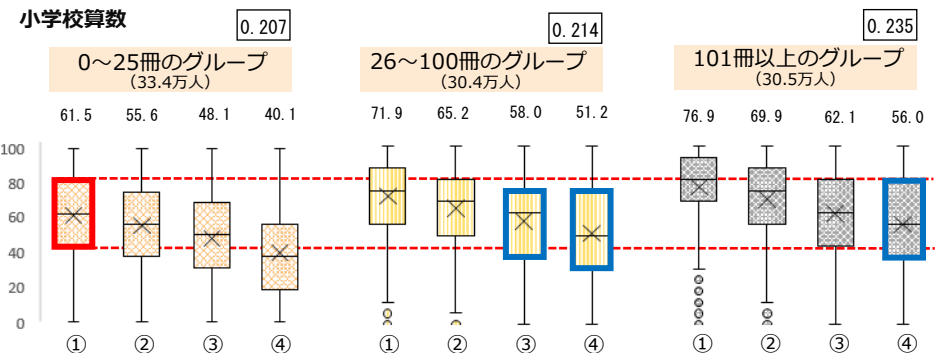
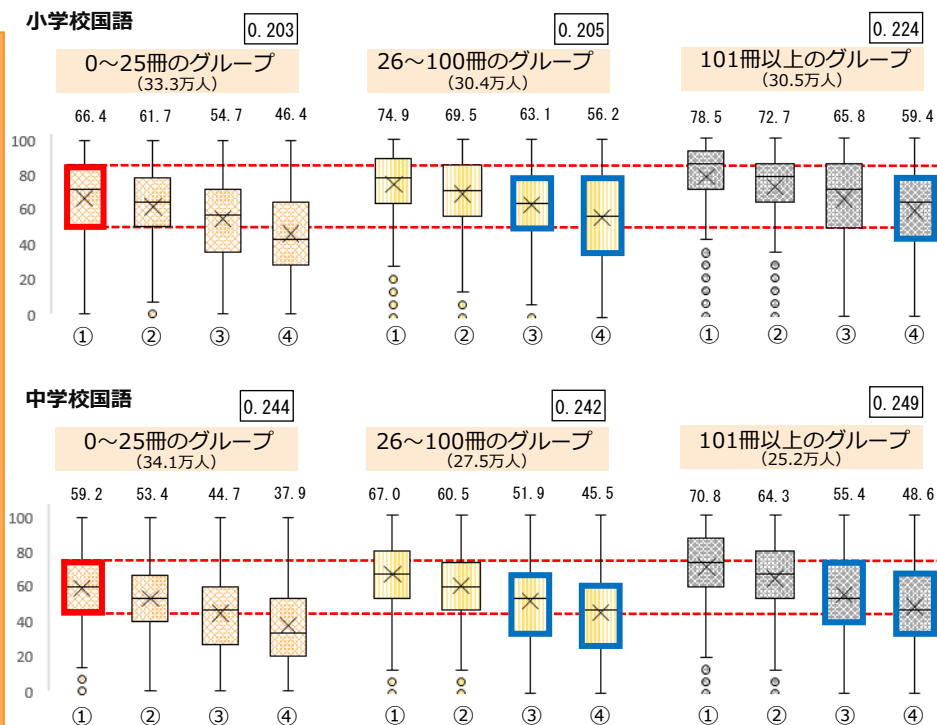
- 0~25冊
- 26~100冊
- 101冊以上

*SESの代替指標として利用

分析

例えば、中学校数学では、低SESグループ（本が0~25冊）で主体的・対話的で深い学びの質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26~100冊）で「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ（本が101冊以上）で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置（正答率が高い位置）にある。

「各教科の正答率」



(注) 中・高SESグループの箱ひげ図のうち、低SESグループで「①」と回答した児童生徒の箱ひげ図の箱（赤枠）の第1四分位又は第3四分位を下回っているものの箱に青枠を付している。

(参考) SESと正答率との関係等については、令和4年度文部科学省委託研究（受託者：福岡教育大学、お茶の水女子大学）においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html



② 個別最適な学び・協働的な学び

ポイント

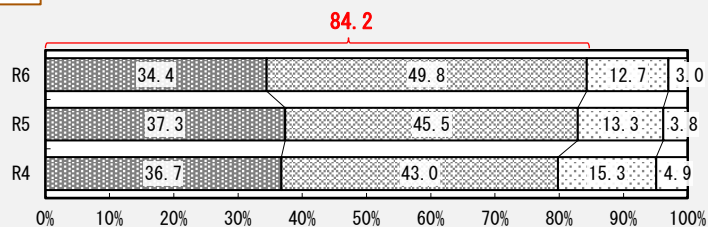
- 【p.32】 授業が自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと考える児童生徒の割合は8割以上。友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだと考える児童生徒の割合は9割以上。
- 【p.33】 個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られるとともに、「授業の内容はよく分かる」「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる。

個別最適な学び

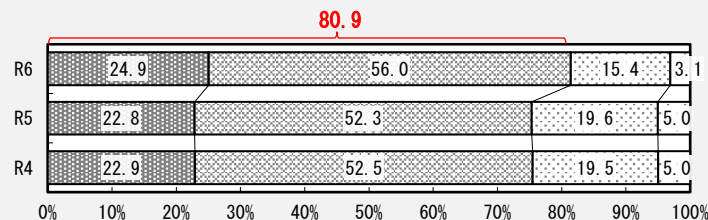
児童〔32〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校

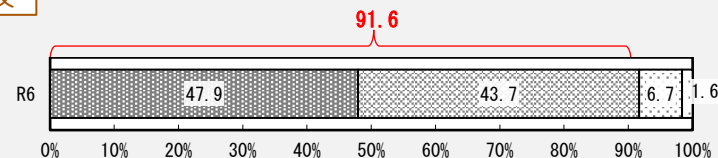


協働的な学び

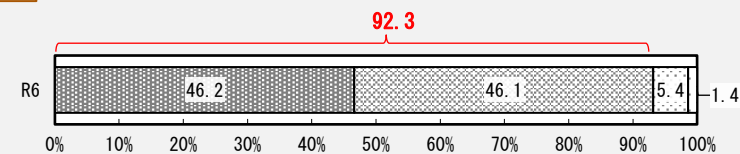
児童〔37〕 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。（新規）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実①

三重クロス集計

- 令和3年1月26日中央教育審議会答申において、これからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するため、ICTも最大限活用しながら、多様な子供たち一人一人の特性や学習の進度等に応じた「個別最適な学び」と、子供たち同士が互いのよい点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実が求められるとされている。
- このため、個別最適な学びと協働的な学びの実施状況について分析したところ、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）の正答率が、他のグループより高かった。

【個別最適な学び】×【協働的な学び】×【各教科の正答率】

[授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 児童生徒〔32〕]

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

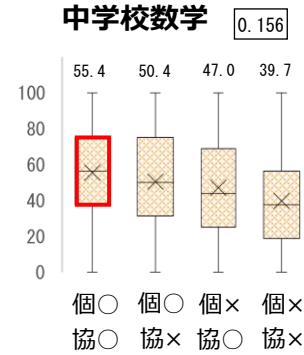
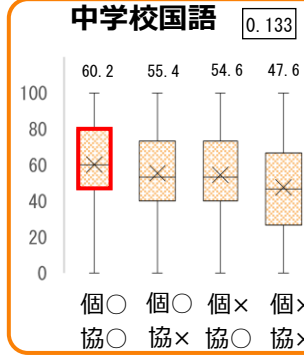
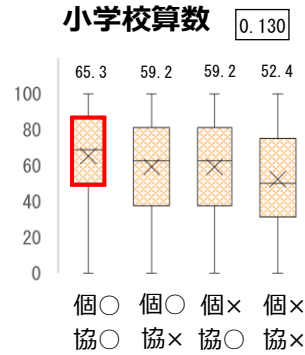
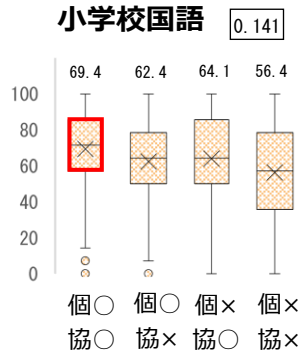


[授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 児童生徒〔37〕（新規）]

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

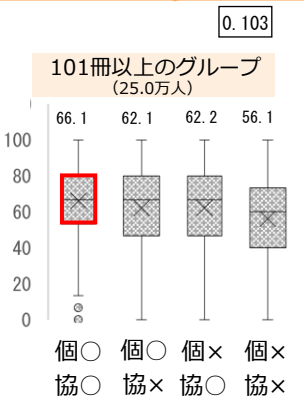
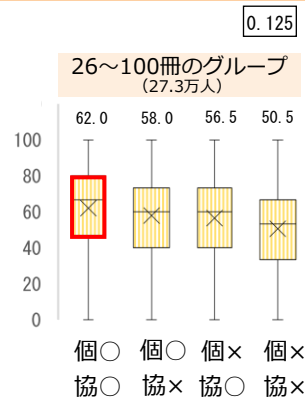
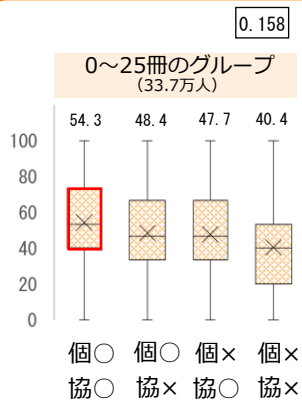
グループ	人数（万人）	
	小学校	中学校
個○協○	77.7	70.2
個○協×	3.8	2.5
個×協○	10.9	13.0
個×協×	4.3	3.6

「各教科の正答率」



分析

いずれに教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○（赤枠））の正答率を表す箱ひげ図の箱が最も上の位置（正答率が高い位置）にあり、個別最適な学び・協働的な学びのいずれにも取り組んでいないグループ（個×協×）の箱が最も下の位置にある。

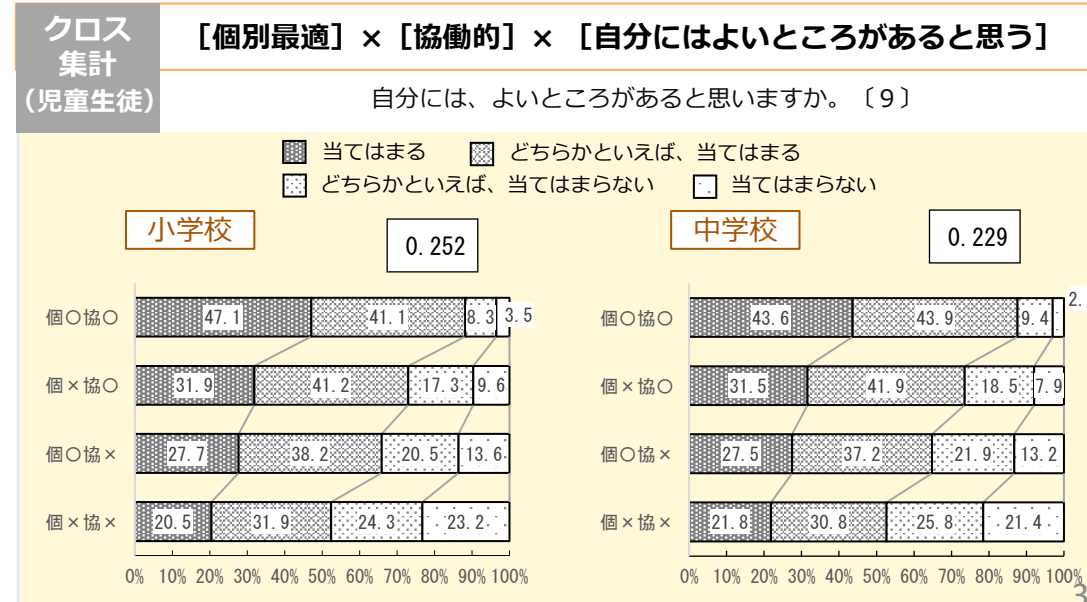
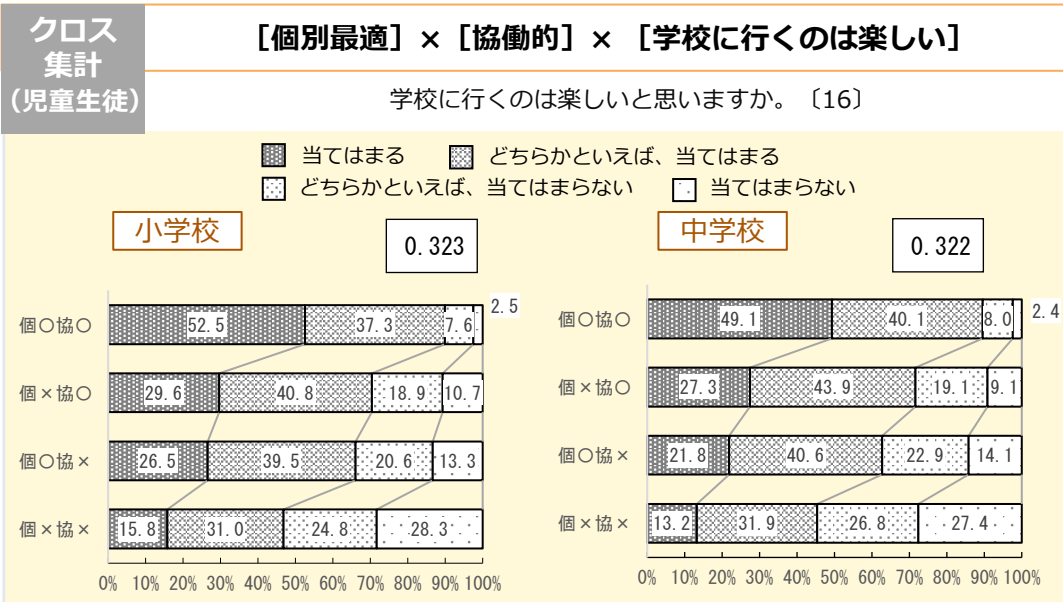
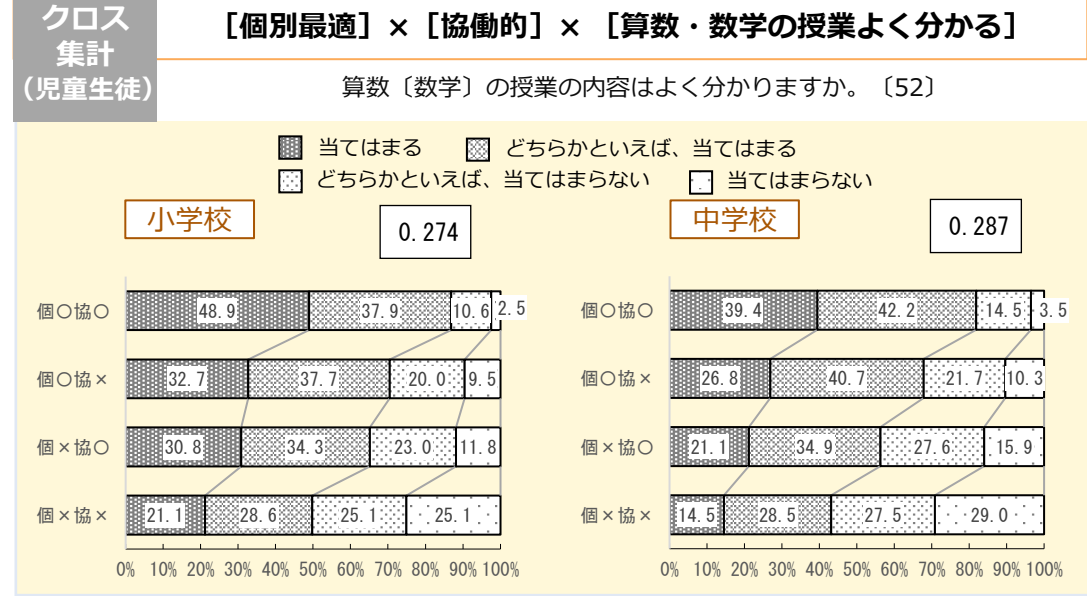
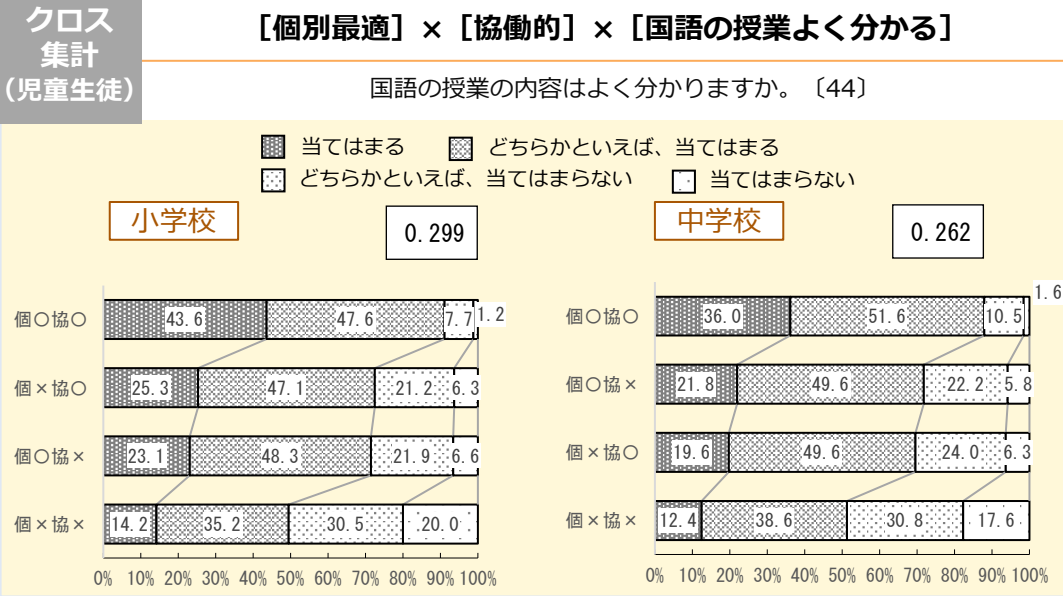


分析

個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）の正答率が他のグループより高いという傾向は、SES別に見ても確認できる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実②

○ 児童生徒質問調査について、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）が「授業の内容はよく分かる」「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合が最も高かった。



③カリキュラム・マネジメント

ポイント

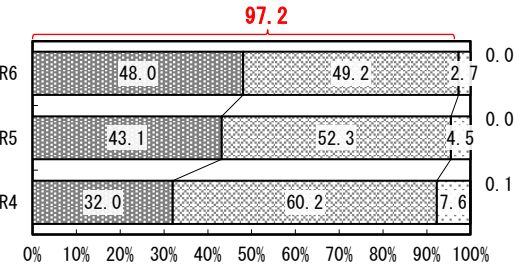
- 【p.35】小中とも約95%の学校がカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。

小学校〔14〕
中学校〔14〕

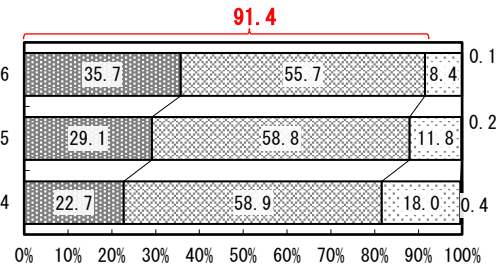
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校



中学校

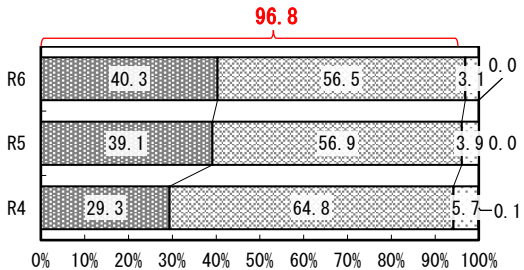


小学校〔13〕
中学校〔13〕

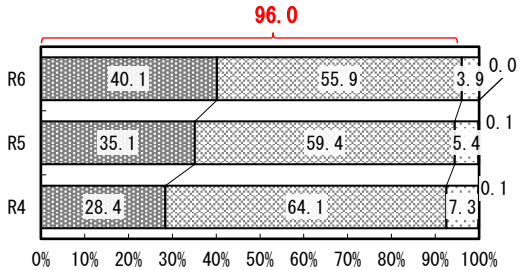
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校



中学校



「カリキュラム・マネジメント」と「学校運営」との関係

- 学校づくりに組織的・柔軟に取り組んでいる学校ほど、カリキュラム・マネジメントの取組を行っている傾向が見られる。

クロス集計
(学校)

【学校改善に組織的に取り組む】× 【教育内容と資源を効果的に組み合わせる】

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。〔14〕

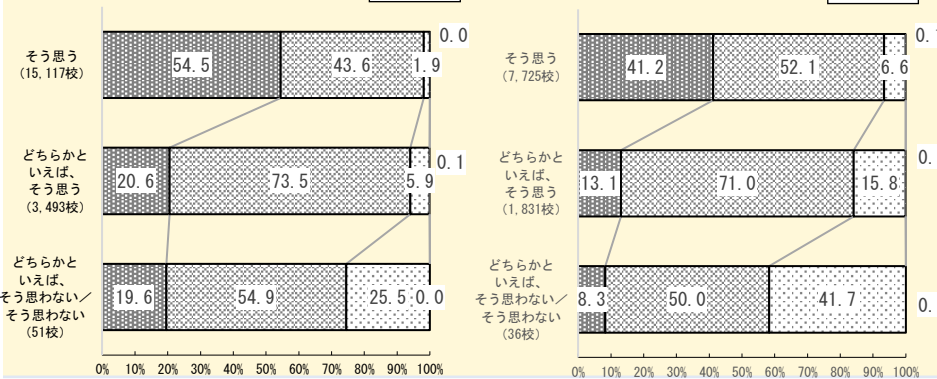
■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校

0.273

中学校

0.249



各児童生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか。(21) (新規)

クロス集計
(学校)

【新しい取組に前向きな教職員が多い】× 【教育課程のPDCAサイクルを確立している】

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。〔13〕

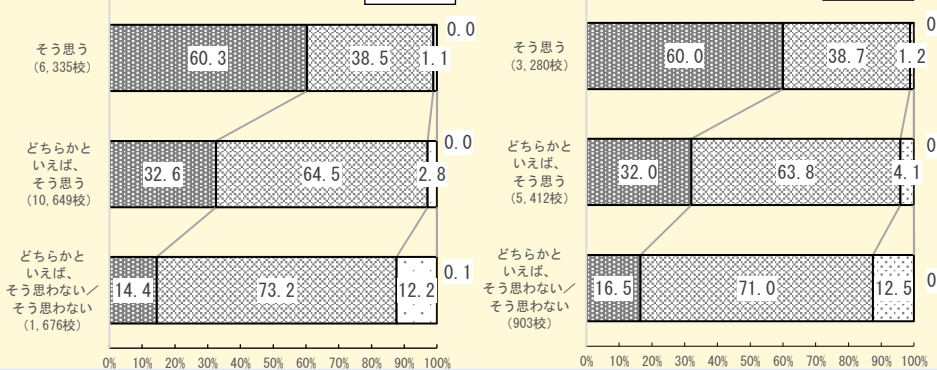
■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校

0.320

中学校

0.314



今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりして、多くの教職員が多いと思えますか。(22) (新規)

(2) ICTを活用した学習状況 ① ICTの活用状況等

ポイント

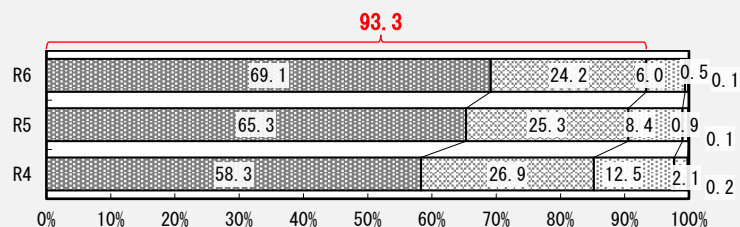
- 【p.36】 ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校93%（前年比3ポイント増）、中学校91%（前年比4ポイント増）。
- 【pp.37-38】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。
- 【p.39】 ICT機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

小学校〔56〕
中学校〔60〕

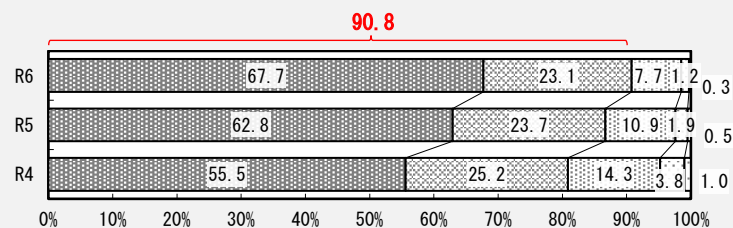
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

ほぼ毎日
 週3回以上
 週1回以上
 月1回以上
 月1回未満

小学校



中学校



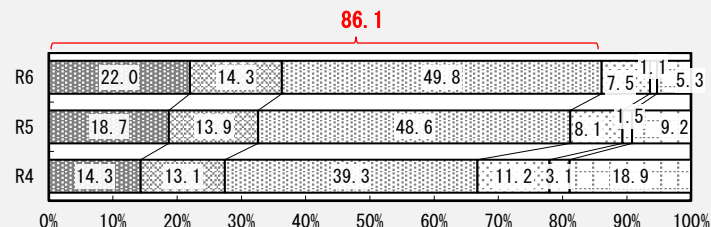
小学校〔64〕
中学校〔68〕

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

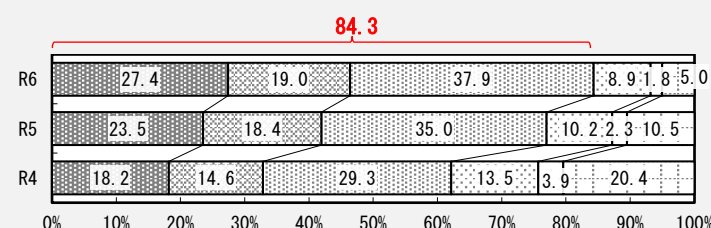
毎日持ち帰って、毎日利用させている
 毎日持ち帰って、時々利用させている
 時々持ち帰って、時々利用させている

持ち帰らせていない
 持ち帰ってはいけないこととしている
 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

小学校



中学校



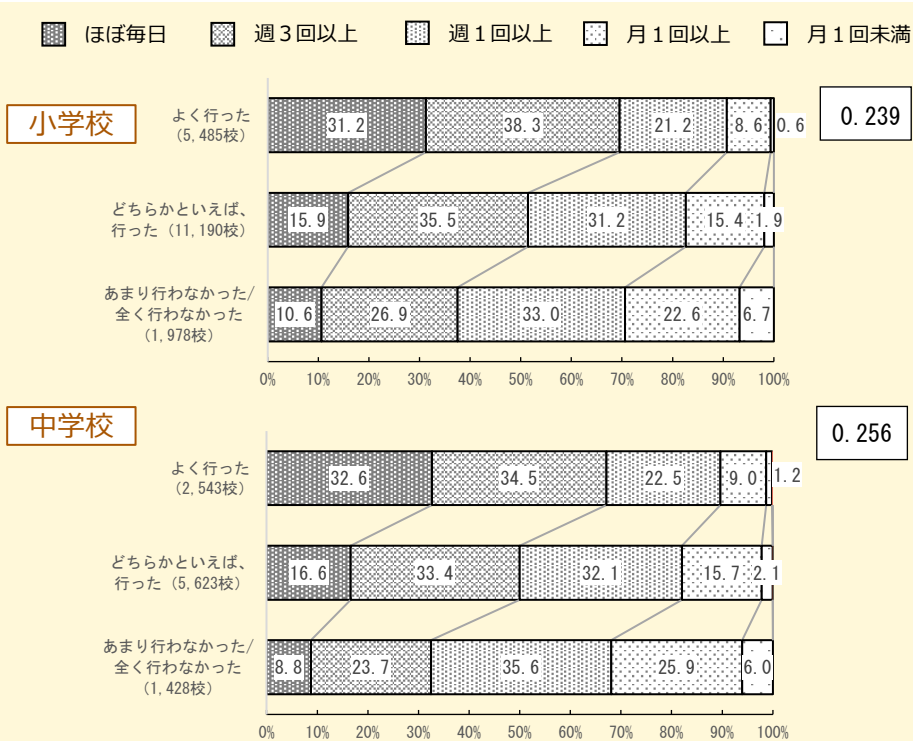
「授業でのICTの活用頻度」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答している。
- 課題の解決に向けて自分から取り組んだと考える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

クロス集計 (学校)

【課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動】 × 【考えをまとめ、発表・表現する場面でのICTの活用頻度】

調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
〔小：58、中：62〕

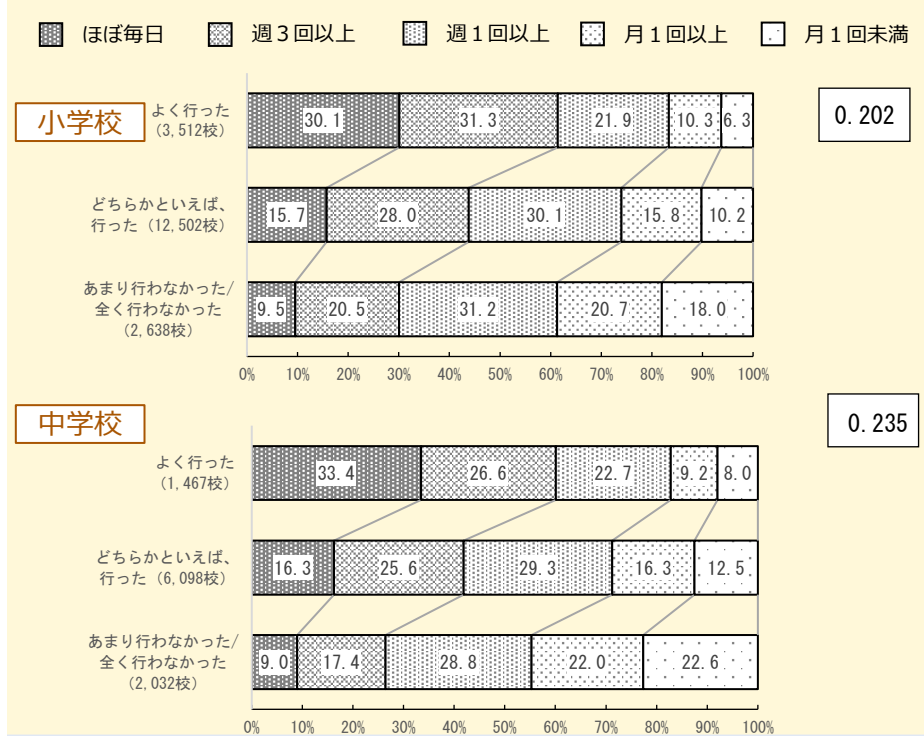


調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れられましたか。

クロス集計 (学校)

【各教科等で身に付けたことを課題の解決に生かす学習活動】 × 【児童生徒がやりとりする場面でのICTの活用頻度】

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
〔学校〔小：60、中：64〕〕



調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。〔学校35〕

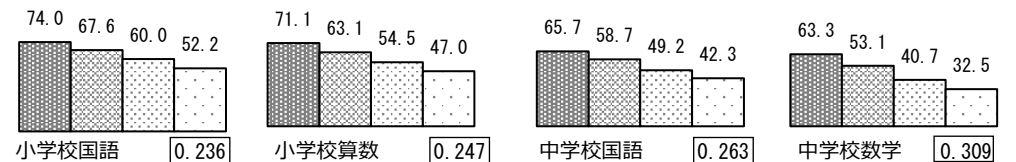
児童生徒質問【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】と【正答率】との関係【p.28の再掲】

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

児童〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
生徒〔30〕

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率



三重クロス集計

課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している傾向が見られる。(※) その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。

(※)「学校〔33〕 課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動」以外の主体的・対話的で深い学びに関する学校質問についても同様の傾向。

【課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動】×
【考えをまとめ、発表・表現する場面でのICT活用頻度】×【各教科の正答率】

[児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。 学校〔33〕]



- ① よく行った
- ② どちらかといえば、行った
- ③ あまり行わなかった
全く行わなかった

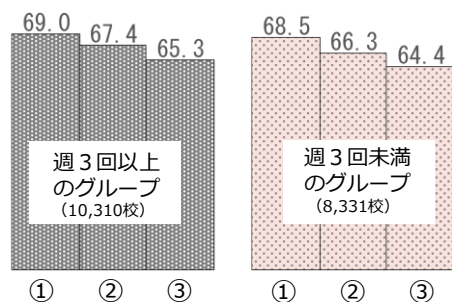


[考えをまとめ、発表・表現する
場面でのICT活用頻度
学校〔小：58、中：62〕]

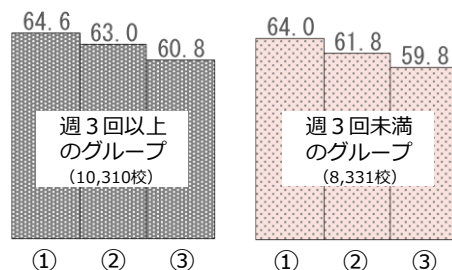


- 週3回以上
- 週3回未満

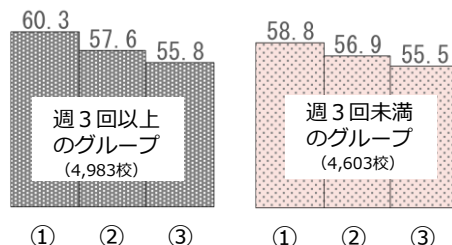
小学校国語



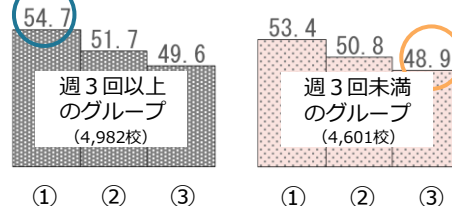
小学校算数



中学校国語



中学校数学



分析

例えば、中学校数学では、

発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。

小学校〔65〕
中学校〔69〕

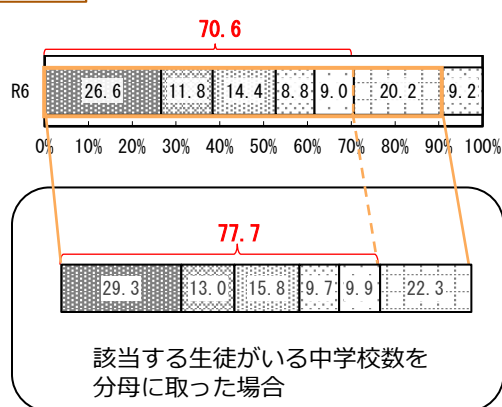
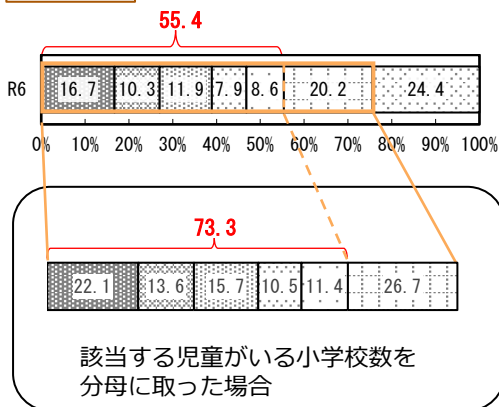
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満 ■ 活用していない ■ 該当する児童生徒がない

(1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）

小学校

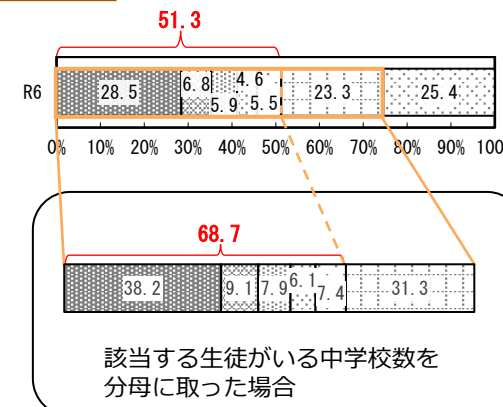
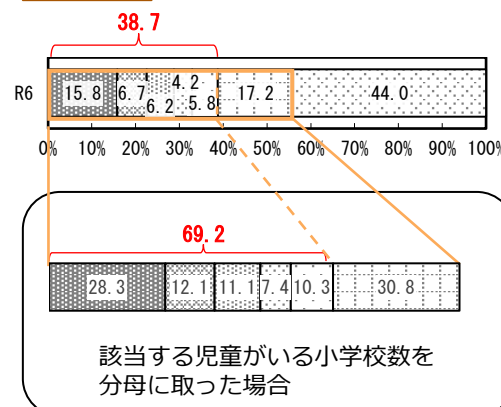
中学校



(2) 希望する不登校児童生徒に対する授業配信

小学校

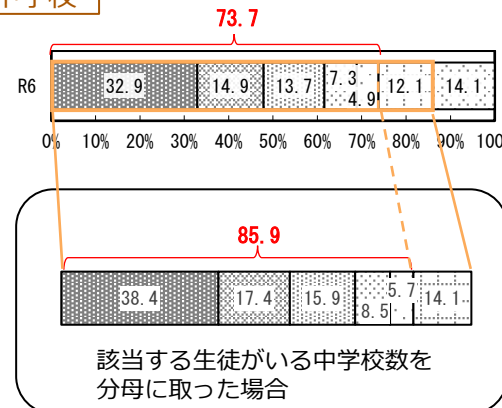
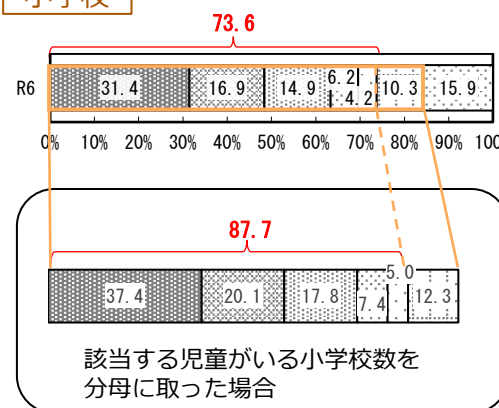
中学校



(3) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援

小学校

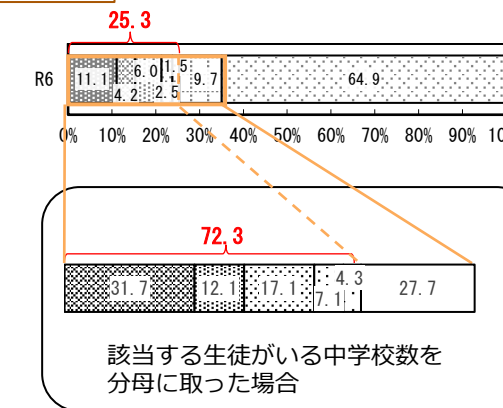
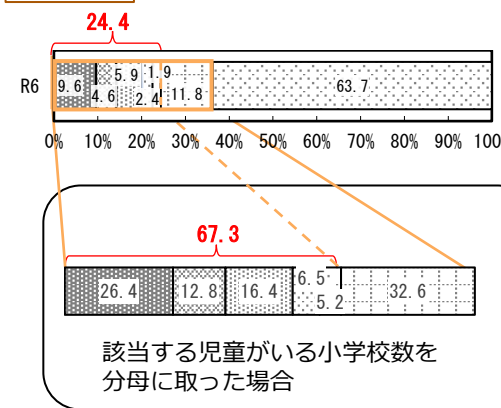
中学校



(4) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援

小学校

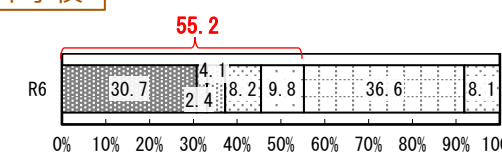
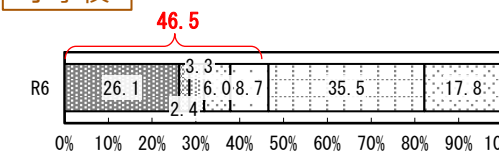
中学校



(5) 児童生徒の心身の状況の把握

小学校

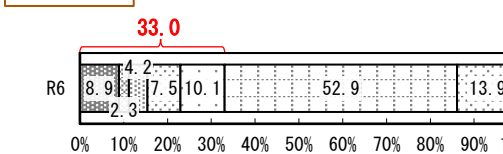
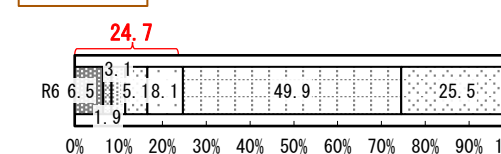
中学校



(6) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援

小学校

中学校



② ICT機器活用の効力感

ポイント

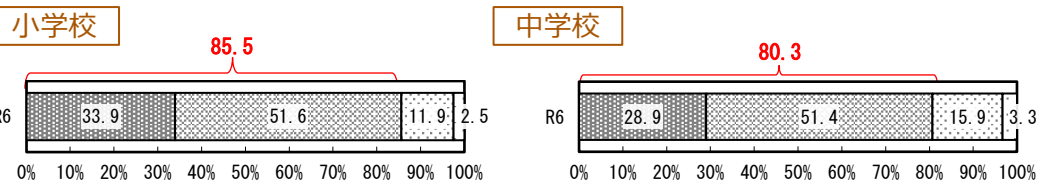
- 【p.40】 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくする」と考えている。
- 【p.41】 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感が高い。
- 【p.42】 ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答している。

児童〔28〕
生徒〔28〕

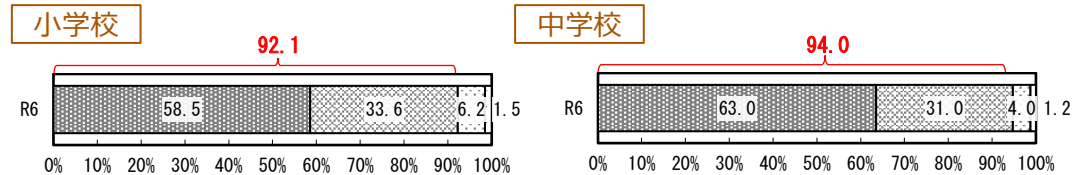
5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

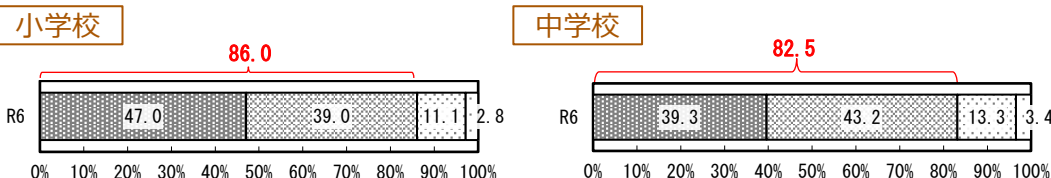
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



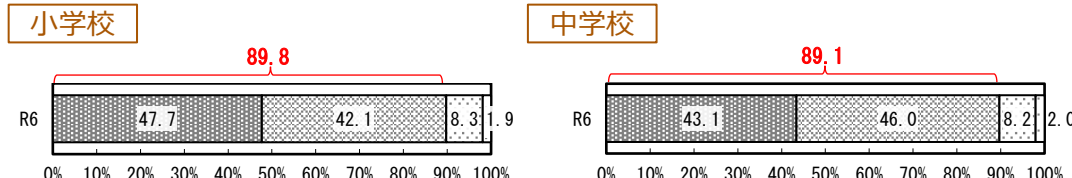
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



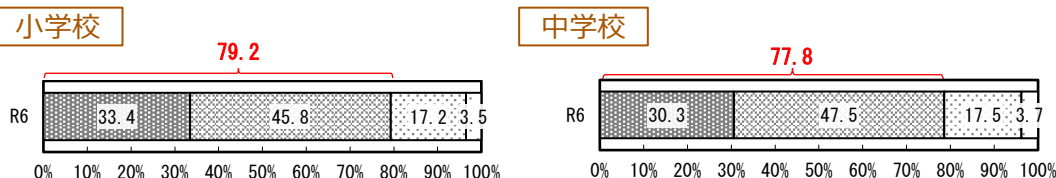
(3) 楽しみながら学習を進めることができる



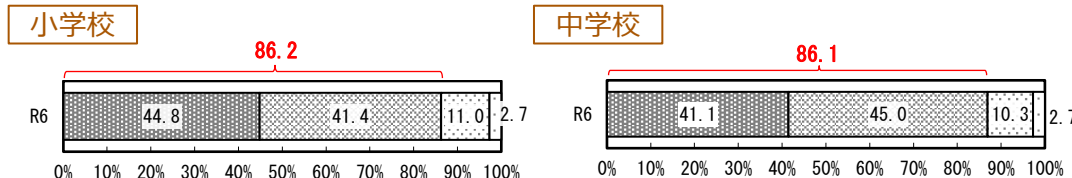
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



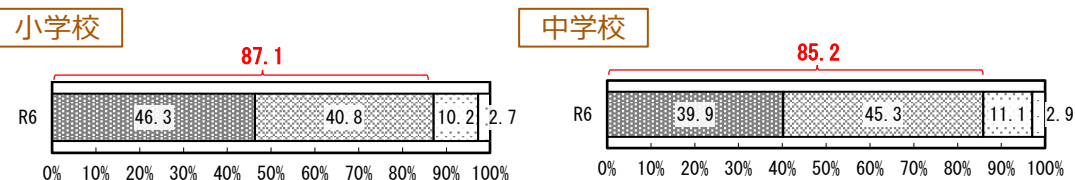
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる



「主体的・対話的で深い学び」と「ICT機器活用の効力感」との関係

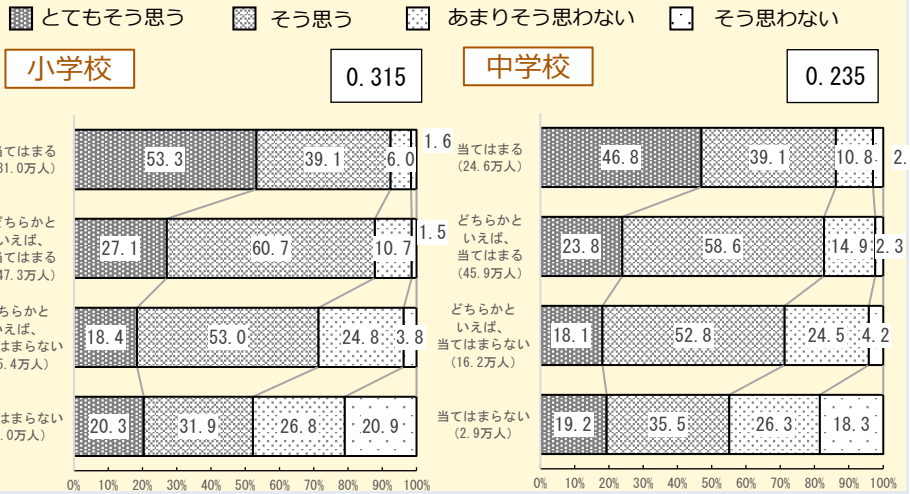
主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答している。

クロス
集計
(児童生徒)

「よく分からなかった点等を見直し次の学習につなげた」 × 「ICT活用で自分のペースで学習」

ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思いますか。〔28-1〕

学習した内容について、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。〔34〕

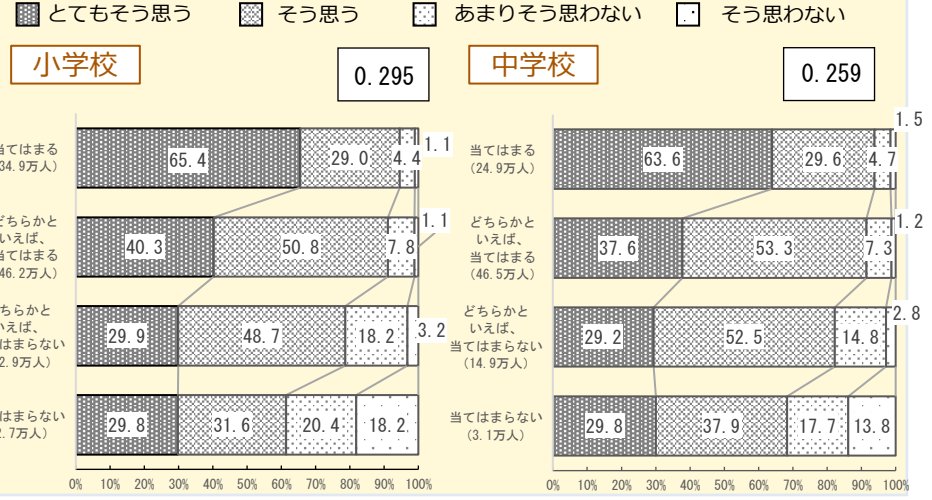


クロス
集計
(児童生徒)

「授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う」 × 「動画等を活用することで学習内容がよく分かる」

画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かると思いますか。〔28-4〕

授業で学んだことを、結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか。〔35〕

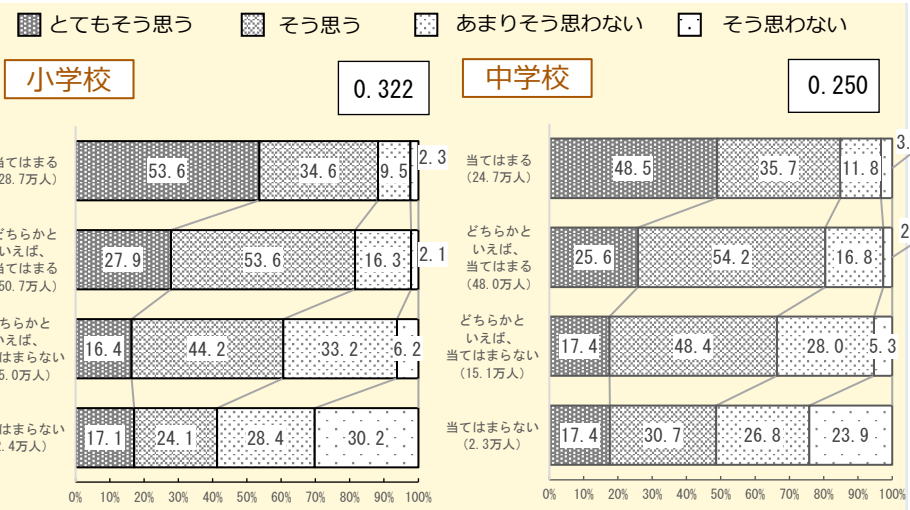


クロス
集計
(児童生徒)

「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」 × 「ICT活用で考えや意見を分かりやすく伝えられる」

ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思いますか。〔28-5〕

授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか。〔30〕

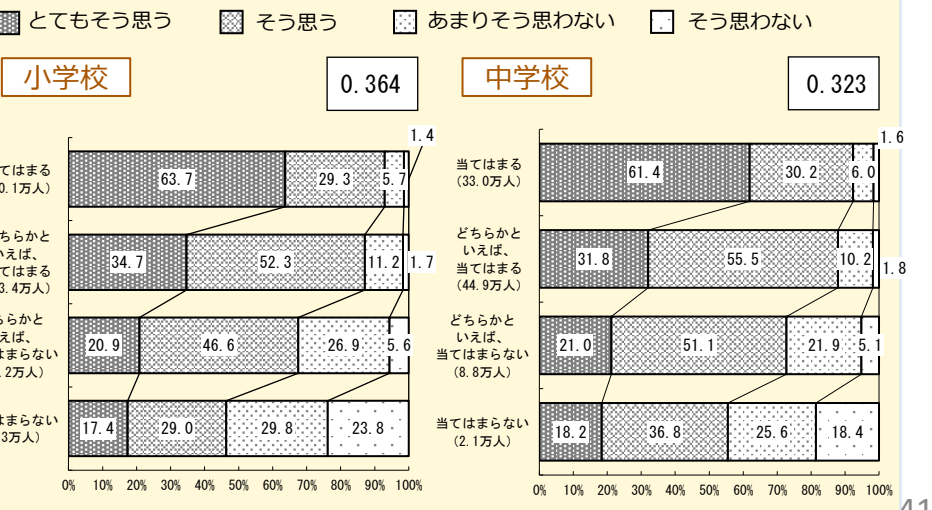


クロス
集計
(児童生徒)

「話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」 × 「ICT活用で友達と考えを共有・比較できる」

ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか。〔28-6〕

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。〔33〕



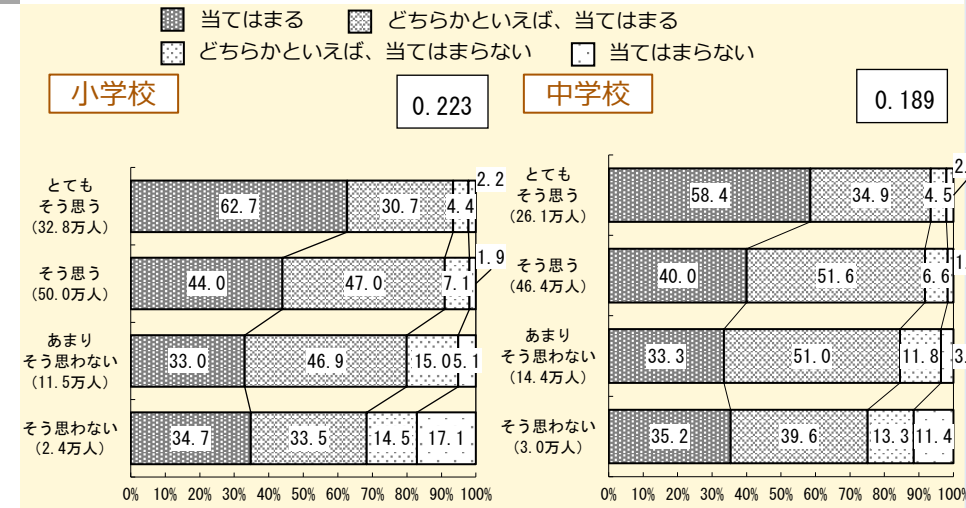
「ICT機器活用の効力感」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係

ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答している。また、そのような傾向は特に低SESグループ（本が0～25冊）において見られる。

クロス集計 (児童生徒) [ICT活用で自分のペースで学習] × [先生がよいところを認めてくれる] ①

先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。〔10〕

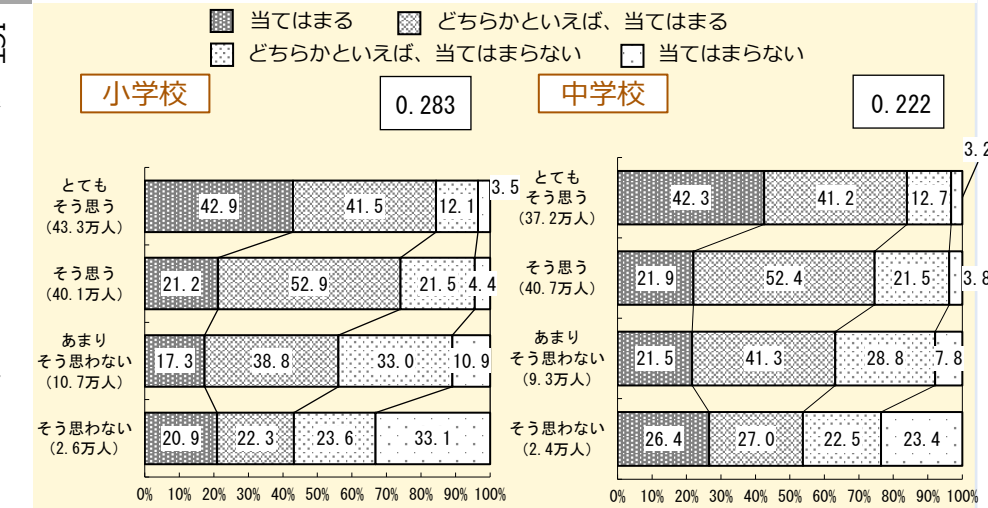
ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思いますか。〔28-1〕



クロス集計 (児童生徒) [ICT活用で友達と考えを共有・比較できる] × [自分と違う考えについて考えるのは楽しい] ③

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔17〕

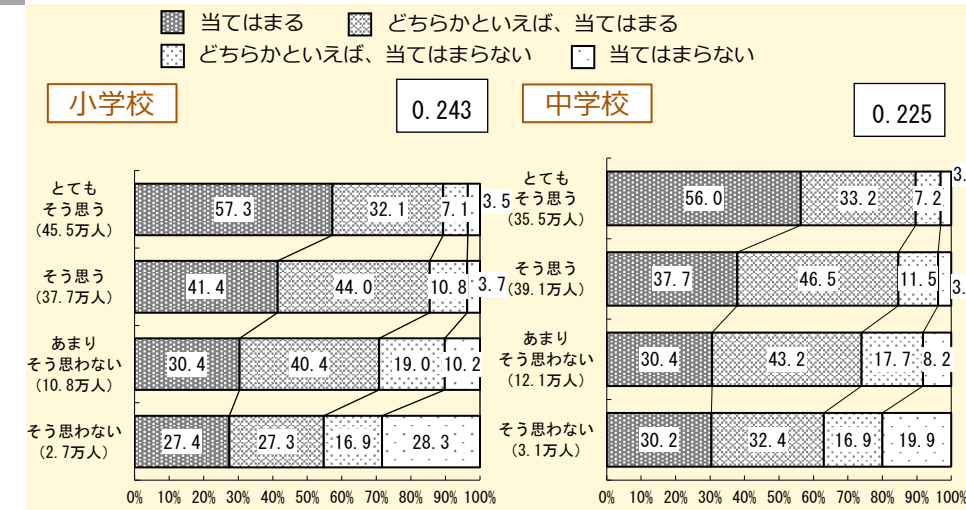
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比較したりしやすくなると思いますか。〔28-6〕



クロス集計 (児童生徒) [ICT活用で楽しみながら学習] × [学校に行くのは楽しい] ②

学校に行くのは楽しいと思いますか。〔16〕

ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができると思いますか。〔28-3〕



分析

「ICT機器活用の効力感」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係について、SESごとに相関係数を見てみると、低SESグループ（本が0～25冊）のグループが最も相関係数が高くなっている。

	①		②		③	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
全体	0.223	0.189	0.243	0.225	0.283	0.222
0～25冊	0.243	0.206	0.264	0.238	0.302	0.246
26～100冊	0.216	0.183	0.234	0.221	0.276	0.214
101冊以上	0.205	0.174	0.225	0.212	0.261	0.200

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度

① 理科に関する状況

ポイント

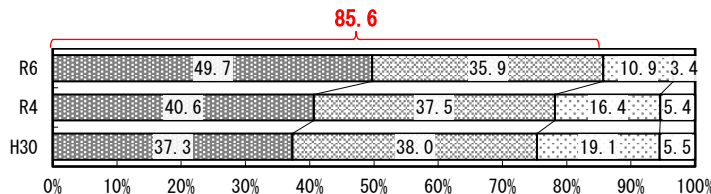
- 【p.43】理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている児童生徒の割合は、前回令和4年度調査から増加した。

(※) なお、前回調査結果では、予想をもとに観察・実験をしている児童生徒ほど、理科の正答率が高く、「理科が好き」と回答している傾向が見られた。

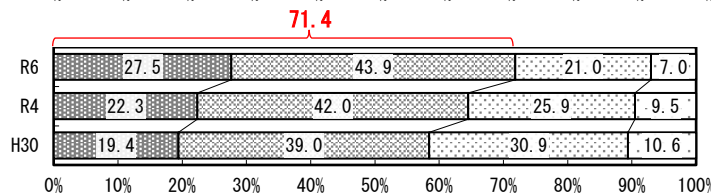
児童〔60〕 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てて
生徒〔60〕 いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



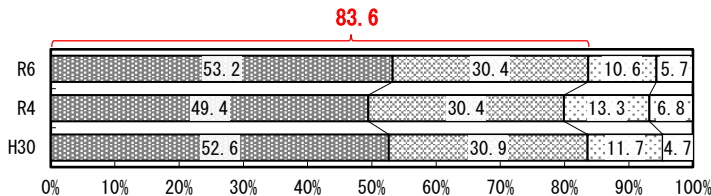
中学校



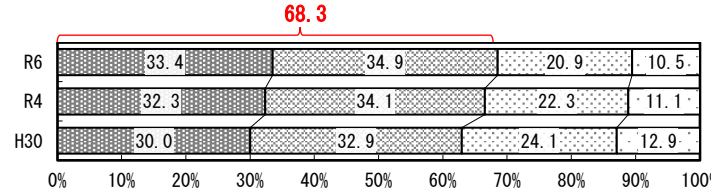
児童〔58〕 理科の勉強は好きですか。
生徒〔58〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



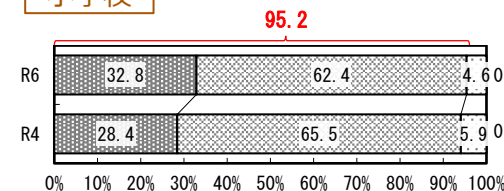
理科における「課題の発見」

- 令和4年度調査の理科の結果を活用した専門的な分析において、「課題の発見」は理科の正答率や興味・関心を向上する上で重要であることが指摘された。一方、令和6年度調査では、理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりすることがあると受け止めている児童生徒の割合は、学校の指導状況と比較すると低い（特に中学校）。
- 各学校において、児童生徒が自ら理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりできるよう、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実が求められる。

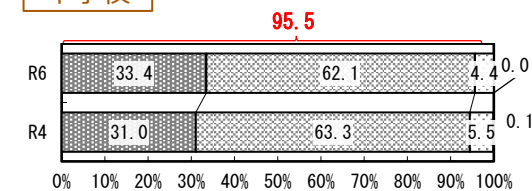
小学校〔49〕 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか。
中学校〔49〕

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行かなかった □ 全く行かなかった

小学校



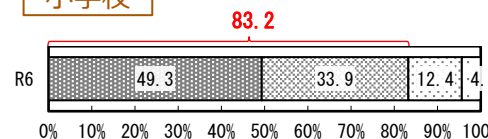
中学校



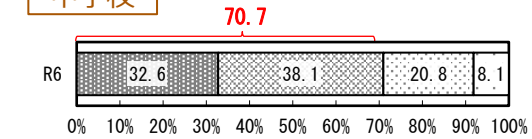
児童〔59〕 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりすることがあります。
生徒〔59〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



(参考) 令和5年度文部科学省委託研究「理科教育における特徴的な取組等に関する分析」(受託者: 国立大学法人福島大学)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryokuchousa/1416304_00010.html



② 英語に関する状況

ポイント

- 【p.44】英語の授業において言語活動*に取り組んだと考える生徒の割合は、増加傾向にある。

(※) なお、令和5年度調査結果では、言語活動に取り組んだと考える生徒ほど、英語の正答率が高く、「英語の勉強は好き」と回答する傾向が見られた。

*実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動。

学校の指導状況

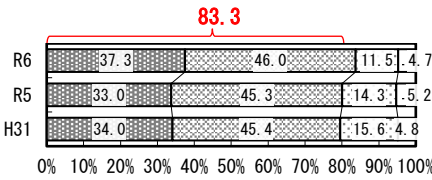
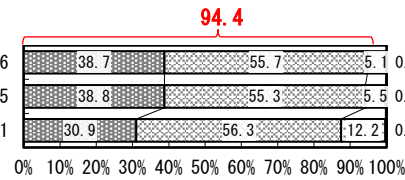
■ よく行った □ どちらかといえば、行った
□ あまり行わなかった □ 全く行わなかった

中学校生徒の受け止め

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

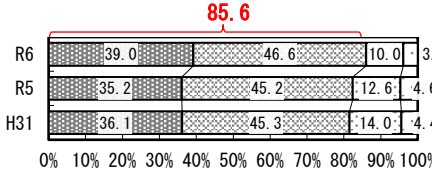
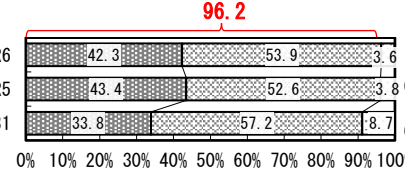
聞く

英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。
中学校〔52〕生徒〔61〕



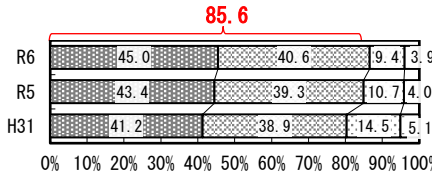
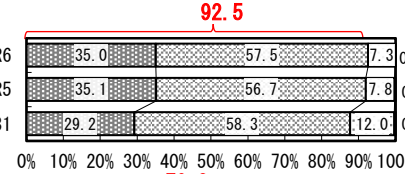
読む

英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。
中学校〔53〕生徒〔62〕



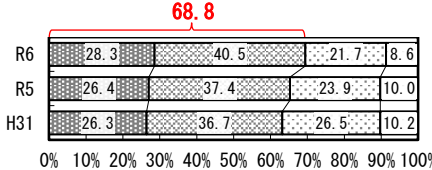
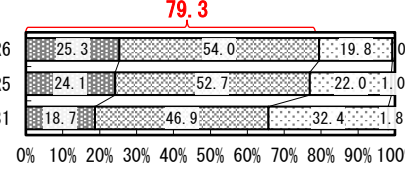
書く

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか。
中学校〔56〕生徒〔65〕



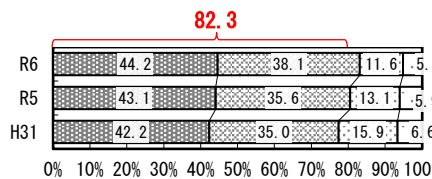
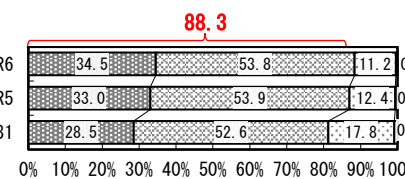
話す (やり取り)

原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか。
中学校〔54〕生徒〔63〕



話す (発表)

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったか。
中学校〔55〕生徒〔64〕



言語活動と社会経済的背景（SES）と英語力

令和5年度調査の英語の結果を活用した専門的な分析において、言語活動に取り組んだ生徒は、社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、英語の正答率が高い傾向が見られた。

○社会経済的背景（SES）と英語力の関係

・SESが低い場合であっても、言語活動が行われていたり、英語学習の興味・関心や授業の理解度が高かったりする場合は、英語力が高くなっており、SESの影響よりも英語授業の効果等の影響は大きい。

○SESが低く英語力の高い学校の英語授業

・SESが低く英語力の高い学校の訪問調査では、やり取りを中心とした授業展開が多く、言語活動を中心しつつ、語彙や文法事項などの正確さに焦点を置いた練習が豊富に行われていた。

(参考) 令和5年度文部科学省委託研究「令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析」(受託者: 横浜国立大学)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gaku/ryoku-chousa/1416304_00010.html



3. 質問調査結果（児童生徒、学校）

※ 内の数字は相関係数

R6

(4) 児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況

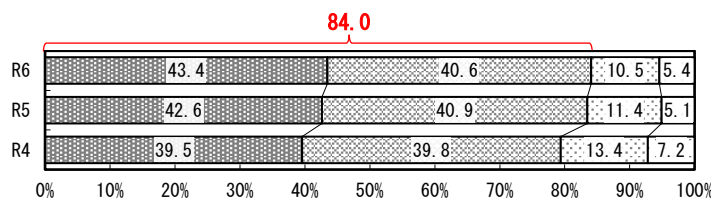
ポイント

- 【p.45】 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に、約90%の児童生徒が肯定的に回答。
- 【p.45】 「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の質問に肯定的に回答した児童生徒は、小学校で84%（前年比7ポイント増）、中学校で76%（前年比12ポイント増）。

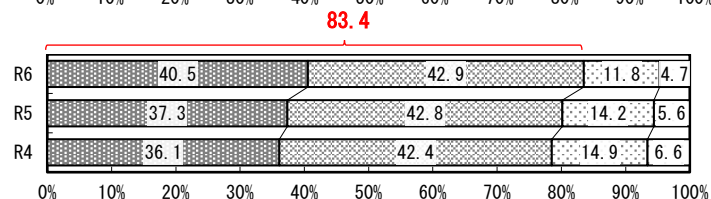
児童〔9〕 生徒〔9〕 自分には、よいところがあると思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



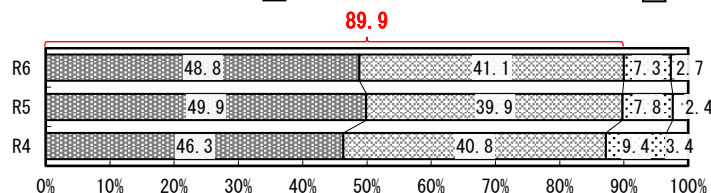
中学校



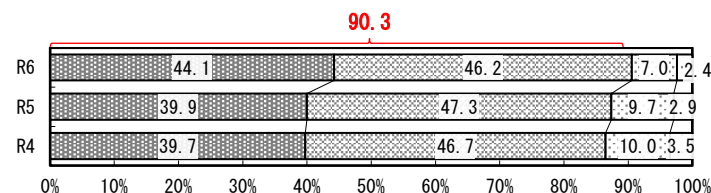
児童〔10〕 生徒〔10〕 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



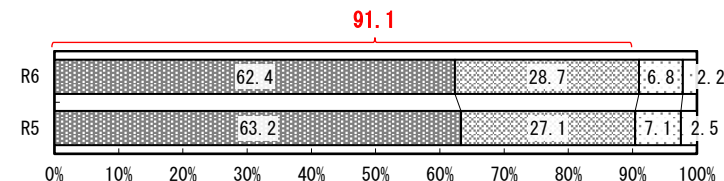
中学校



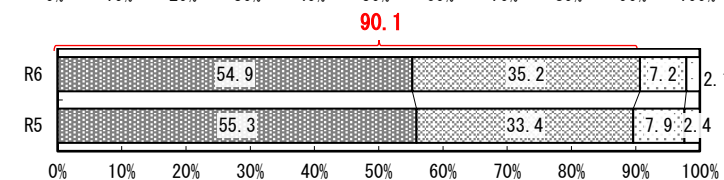
児童〔18〕 生徒〔18〕 友達関係に満足していますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



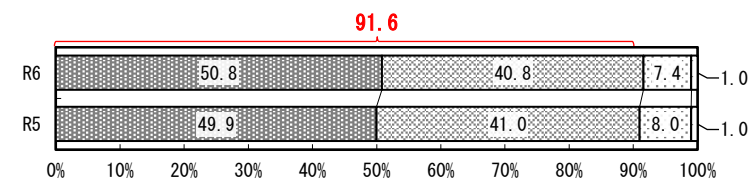
中学校



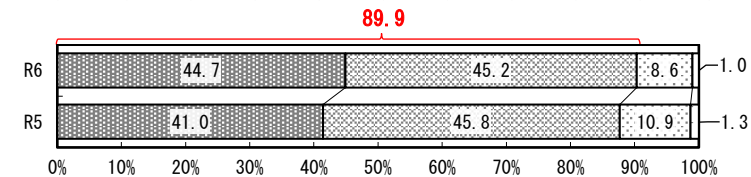
児童〔19〕 生徒〔19〕 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

■ よくある ■ ときどきある ■ あまりない ■ 全くない

小学校



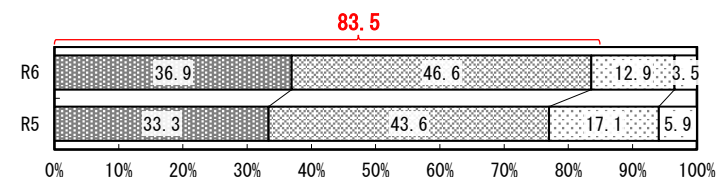
中学校



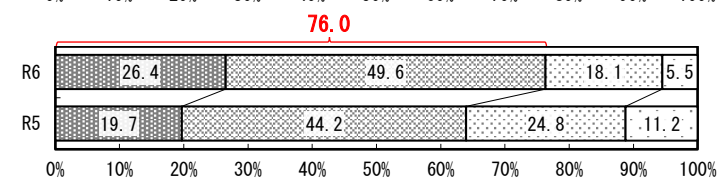
児童〔25〕 生徒〔25〕 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



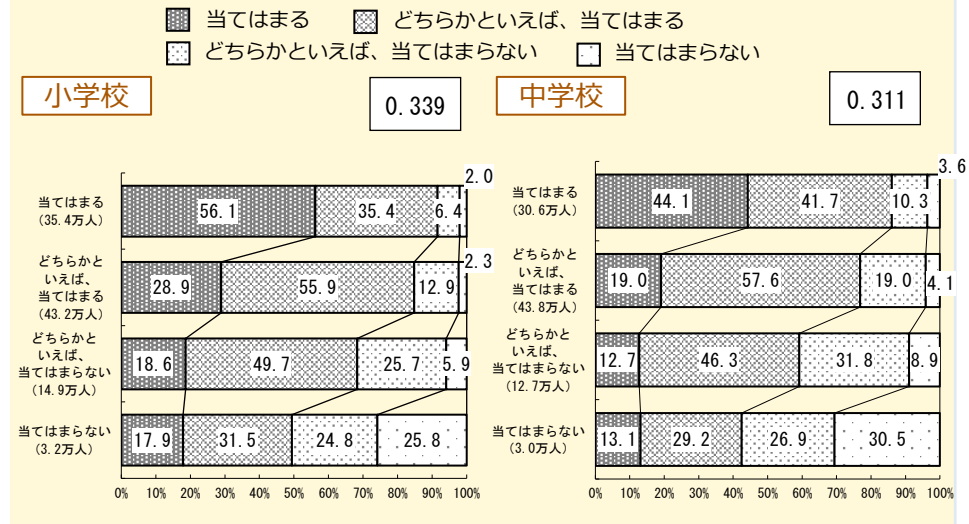
- 児童生徒質問〔25〕「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」は、「持続可能な社会の創り手」を育むという学習指導要領前文の趣旨に関して児童生徒自身の考えを尋ねる質問項目とも言える。
- 〔25〕は児童生徒の社会経済的背景（SES）や各教科の正答率と相関は見られない一方で、授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う児童生徒ほど、〔25〕にも肯定的に回答している傾向がある。また、「総合的な学習の時間」「学級活動」への取組状況と〔25〕の回答状況にも相関が見られる。
- これらのことを踏まえると、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や総合的な学習の時間、学級活動の取組は、児童生徒の「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という考えの形成に影響を与えている可能性がある。

クロス集計
(児童生徒)

総合的な学習の時間では、自己課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔38〕

【総合的な学習の時間】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕



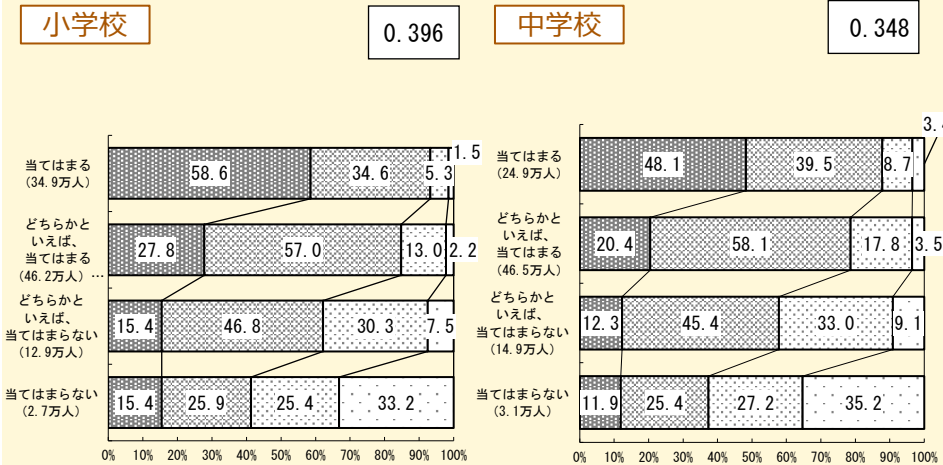
クロス集計
(児童生徒)

【授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕

当てはまる、どちらかといえば、当てはまる、どちらかといえば、当てはまらない、当てはまらない

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。〔35〕



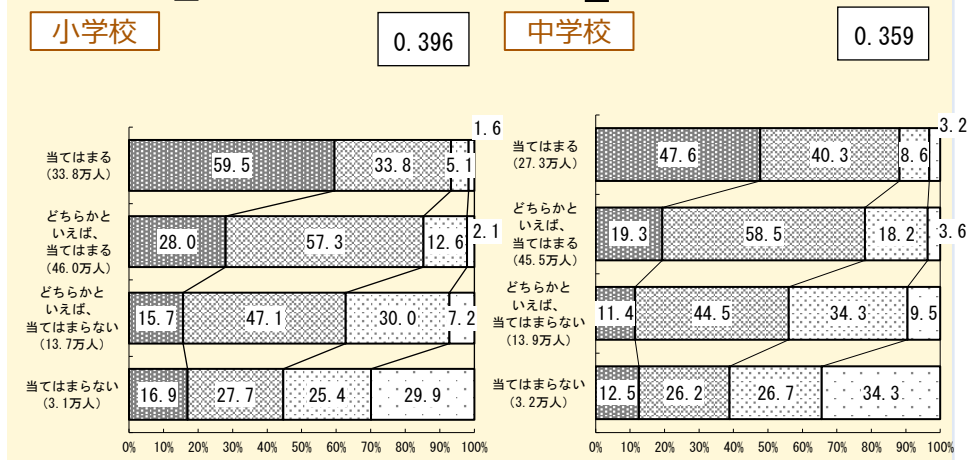
クロス集計
(児童生徒)

【学級活動を生かして努力している】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕

当てはまる、どちらかといえば、当てはまる、どちらかといえば、当てはまらない、当てはまらない

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔40〕



(5) 学校外での過ごし方（勉強時間、テレビゲーム等の時間）

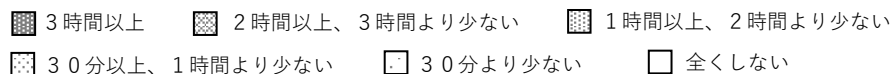
ポイント

- 【p.47】 学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小中とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
 (※) 勉強時間と学力の推移の関係については、経年変化分析調査の結果も踏まえながら分析予定（例えば、児童生徒が自ら学び方を考え、短い時間で質の高い学習を行えるようになったなど、学び方やICT機器活用が勉強時間に影響を与えている可能性もある。）。
- 【p.48】 テレビゲーム*をする時間は小・中学生とも横ばい、SNS・動画視聴の時間は、小学生は横ばい、中学生は微増の傾向。
 *コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

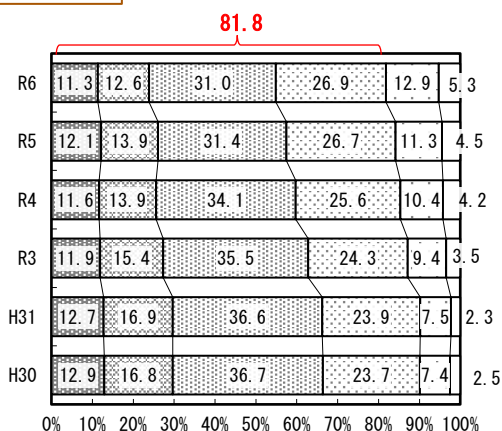
平日の勉強時間

児童〔21〕
生徒〔21〕

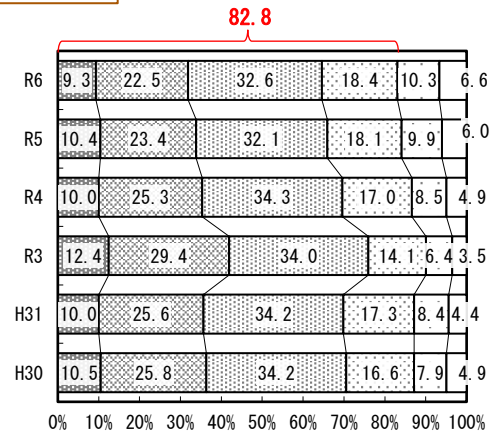
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



小学校



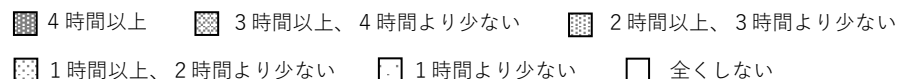
中学校



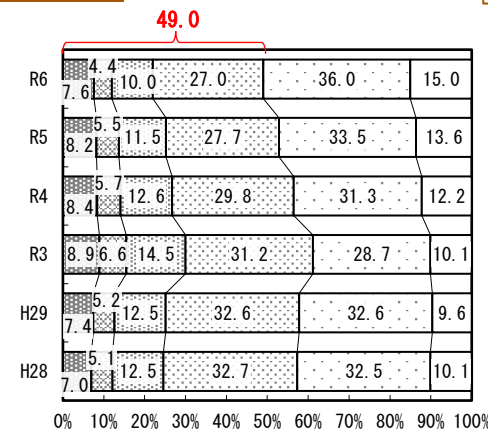
休日の勉強時間

児童〔22〕
生徒〔22〕

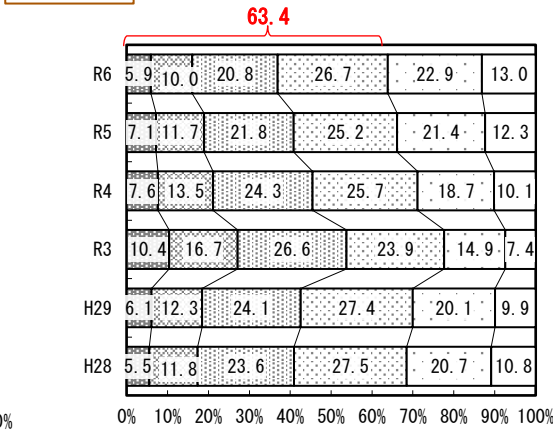
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



小学校

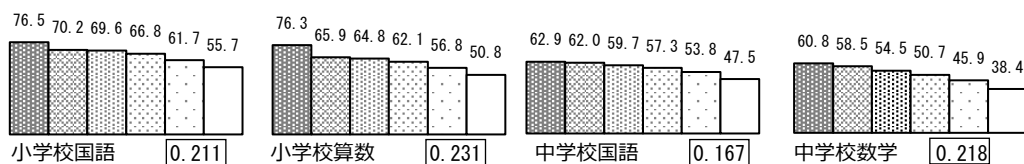


中学校



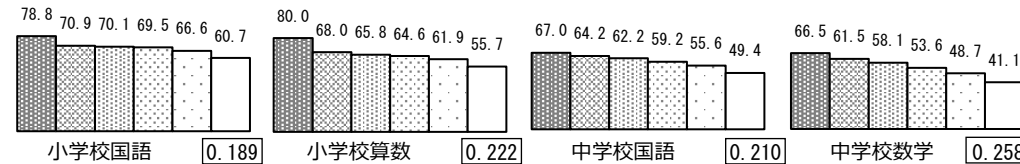
クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率

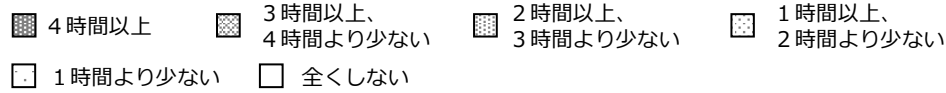


テレビゲーム*

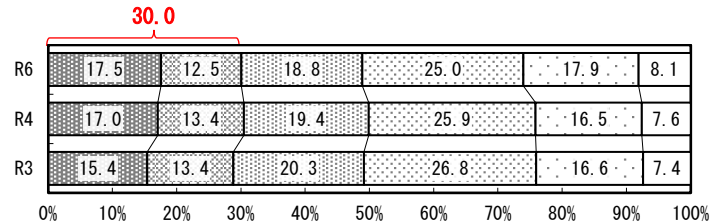
*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

児童〔5〕
生徒〔5〕

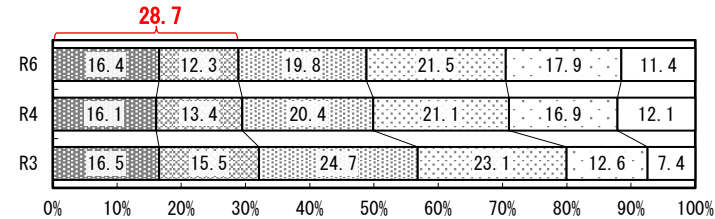
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



小学校



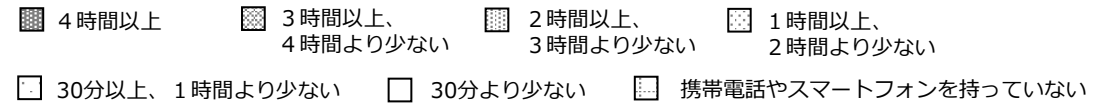
中学校



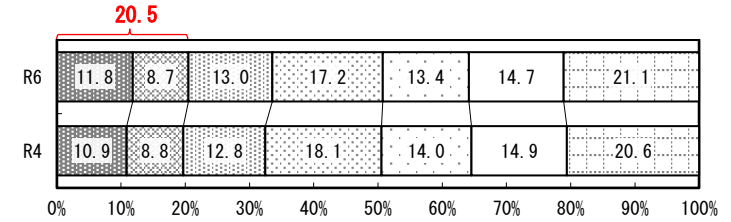
SNS・動画視聴

児童〔6〕
生徒〔6〕

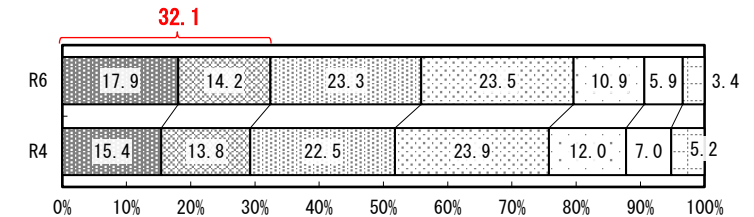
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。



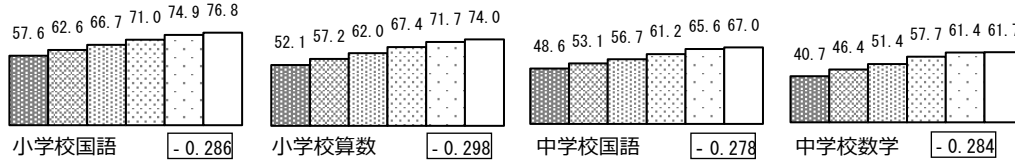
小学校



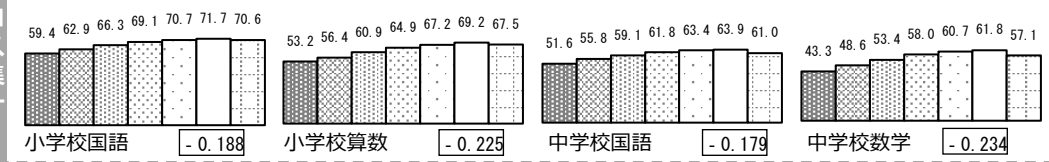
中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



選択肢ごとの教科の平均正答率

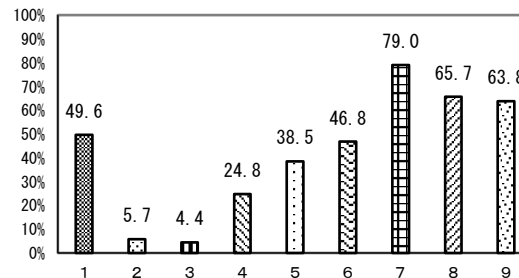


（参考）OECD生徒の学習到達度調査（PISA2022）においても、日本もOECD平均も、SNSやデジタルゲームに費やす時間が一定程度を超えると、3分野（数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー）の得点は低下する傾向が確認されている。
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

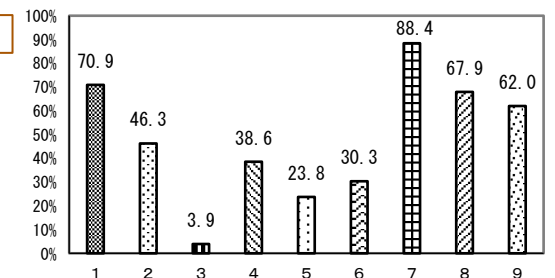
児童〔26〕
生徒〔26〕 放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか。（複数回答）

- 1.【小】家で勉強や読書をしている 【中】学校の部活動に参加している
- 2.【小】放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している 【中】家で勉強や読書をしている
- 3.地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）
- 4.学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- 5.習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている
- 6.スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている
- 7.家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている
- 8.家族と過ごしている
- 9.友達と遊んでいる

小学校



中学校



「テレビゲーム*」「SNSや動画視聴」を平日に1日3時間以上している児童生徒の過ごし方

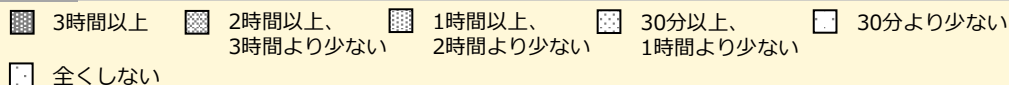
*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

- 普段テレビゲームをする時間が1日当たり3時間以上であるグループ（児童生徒の約30%）は、1日当たり3時間未満のグループより勉強時間が短く、毎日同じくらいの時刻に寝ていないという傾向が見られる。
- また、小学校児童の約21%、中学校生徒の約32%が、普段1日当たり3時間以上SNSや動画視聴などをすると回答した。このような児童生徒の過ごし方についても、テレビゲームと同様の傾向が見られた。

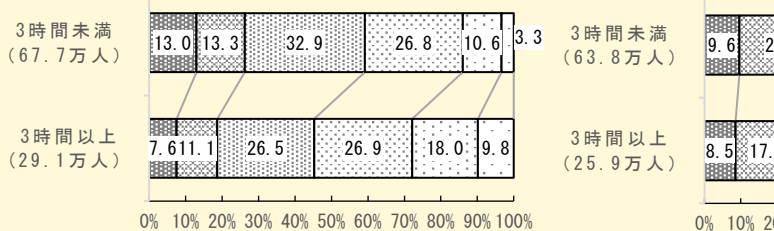
クロス集計

【テレビゲーム】×【平日の勉強時間】

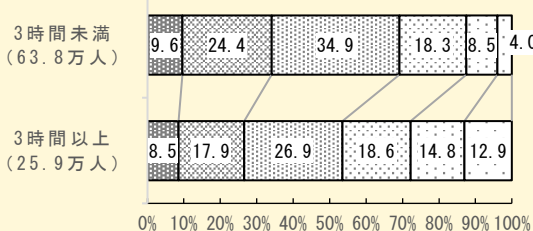
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔21〕



小学校



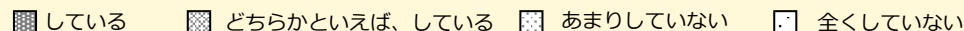
中学校



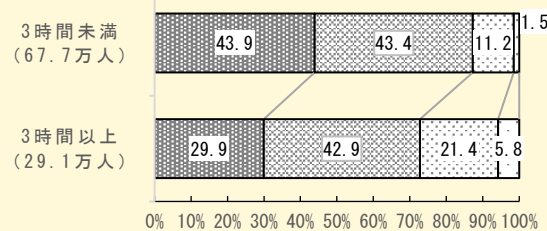
クロス集計

【テレビゲーム】×【就寝時刻】

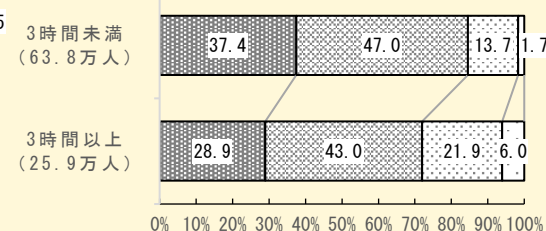
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。〔2〕



小学校



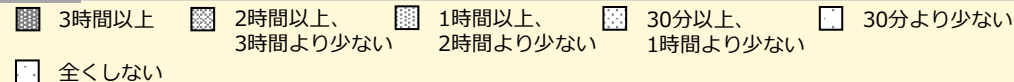
中学校



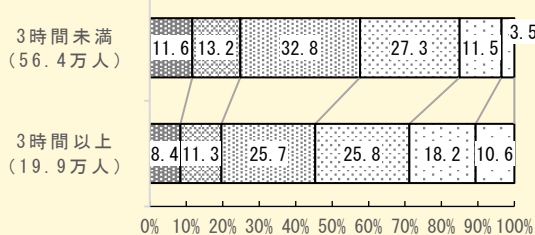
クロス集計

【SNS・動画視聴】×【平日の勉強時間】

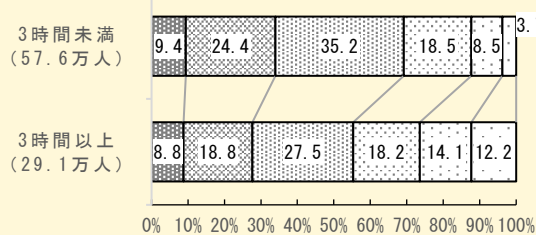
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔21〕



小学校



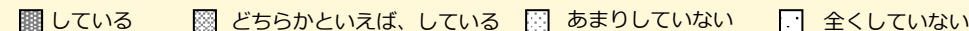
中学校



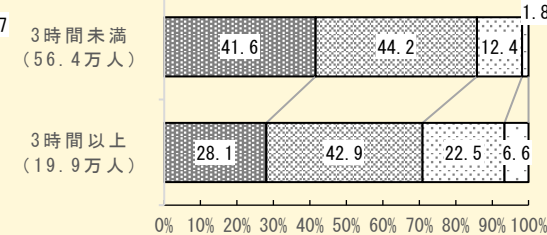
クロス集計

【SNS・動画視聴】×【就寝時刻】

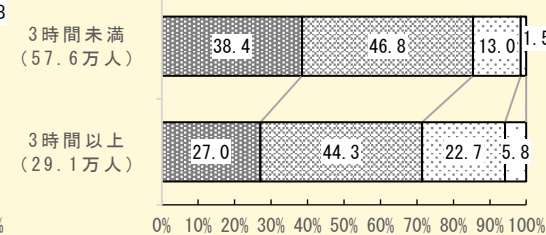
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。〔2〕



小学校



中学校



1 調査結果を活用した追加分析等

○ 令和6年度までの調査の結果を活用した追加分析

- 全国学力・学習状況調査の目的の達成に資するため、大学等の研究機関等の専門的な知見を活用した高度な分析に関する調査研究を委託にて実施。

○ 個票データの貸与

- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。

2 学習指導要領の着実な実施

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底（各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催）。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を進めている学校の好事例を周知。
- 学力向上やカリキュラム・マネジメントに関する成果のとりまとめ・周知。
- 初等中等教育段階からの理数系教育に興味・関心をもつ人材の育成を推進するため、令和6年度より「理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン」を実施。

○ 指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

- 報告書（授業アイデア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和6年8月20日（火）オンライン開催）。
- オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、中学校英語の指導事例集を作成し、Webサイトに掲載（令和7年3月頃を予定）。

3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- 保護者等を対象とした子供のインターネット等の適切な利用について理解を深める取組を推進。

4 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

○ 自治体・学校への伴走支援の取組

- GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。
- リーディングDXスクール事業において、効果的な実践例を創出・モデル化し、その横展開の推進。
- 国費による学校DX戦略アドバイザーの派遣等による支援。
- 学校種別の授業動画など、切れ目のない研修コンテンツの提供。

○ 学校のICT環境整備の推進

- 更なる活用に向け、端末の着実な更新や学校のネットワークの改善を推進。

○ 校務DXの推進

- 令和6年から3年程度を集中取組期間と位置付け、校務DXにより教職員の働き方改革や教育活動の高度化等を推進。

○ 学校のICT環境を活用した取組

- 1人1台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化するための法令改正を実施予定。
- 特別な支援を要する児童生徒に対するICT機器を活用した指導方法を、教員が模擬授業などの演習を通じて体験的に学ぶ機会の提供。
- 外国人児童生徒等に対するICTを活用した日本語指導等を実施する自治体を補助事業により支援。

5 教師を取り巻く環境整備

- 学校における働き方改革の更なる加速化、教師の処遇改善、学校の指導・運営体制の充実、教師の育成支援の一体的推進。
- 小学校における35人学級の計画的整備や高学年教科担任制の強化等のための教職員定数の改善、教員業務支援員の全小・中学校への配置等の支援スタッフの充実に係る支援。
- 管理職のマネジメント力強化を含む研修の充実。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進。